

## 肥育豚の配合飼料中のトウモロコシは 粉碎粃米で 100%代替可能

畜産経営の安定化と飼料自給率の向上の視点から、飼料用米の家畜飼料への利用が期待されています。養豚においても飼料用米の利用が広がりつつありますが、多くは玄米の利用で、給与量は配合飼料中の 20%程度です。そこで、兵庫県立農林水産技術総合センター畜産技術センターでは、飼料用米のさらなる利用促進を図るために、玄米より安価に利用できる粃米を肥育豚に多給する技術を開発し、粉碎粃米の給与割合が肥育豚の発育、と体品質および肉質に及ぼす影響を明らかにしましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 1区当たり7頭の三元交雑豚を用い、トウモロコシを70%含む配合飼料を給与する対照区に対し、トウモロコシの30、50および100%を粉碎粃米で代替する3試験区を設定しました。
2. 各区とも供試豚の健康状態は良好で、粉碎粃米の代替率が増加するに従い飼料要求率が高くなるものの、飼料摂取量が増加し、日増体量は対照区と同等になりました。
3. 粉碎粃米でトウモロコシを100%代替しても、肥育豚の枝肉成績および胸最長筋の理化学性状に有意な差がなく、皮下脂肪中のリノール酸割合が低くなり脂肪の質が向上しました。



写真1 粉碎粃米



写真2 トウモロコシの30%  
を代替した飼料



写真3 給与試験状況

### ☆ 活用面での留意点

粉碎粃米は、地域での生産・流通体制が整えばトウモロコシや玄米よりも安価に利用できる可能性があります。粉碎後は虫やカビの発生に注意し、早期に給与して下さい。詳細は、兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センター 石川翔 (TEL : 0799-42-4880) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)